

健苗育成と適期田植えで食味向上

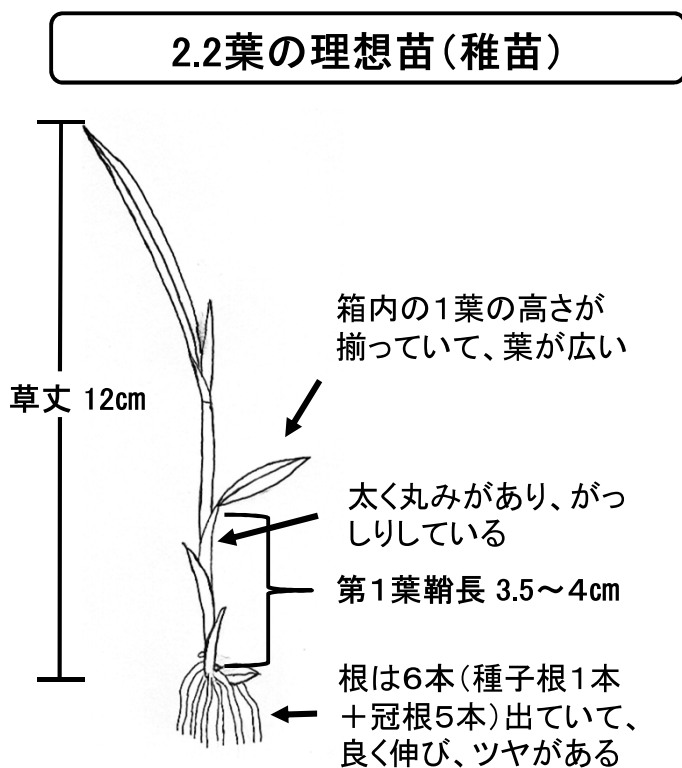
消費者の期待に応え続ける「日本一おいしい米づくり」のため、改めて魚沼産コシヒカリの食味確保に向けた技術対策を徹底しましょう

1 高温による苗の伸びすぎに注意しましょう

- 5月上旬は、平年と同様に晴れの日が多いと予報されています。
気温が上がりそうな日は、ハウスを早めに十分開け、換気しましょう。

【硬化期間中の管理】

温度管理	<p>昼 15～20℃ 夜 10℃以上</p> <p>○ハウスビニールを十分開け、外気に慣らす。 ※低温時はムレ苗を防ぐため、8℃以下にならないよう管理する。</p>
水管理	<p>○灌水は、前半は1日1回、後半は乾き具合を見て午前・午後の2回をめやすに行う。 ※夕方は根張りが不良になるので灌水を避ける。</p>

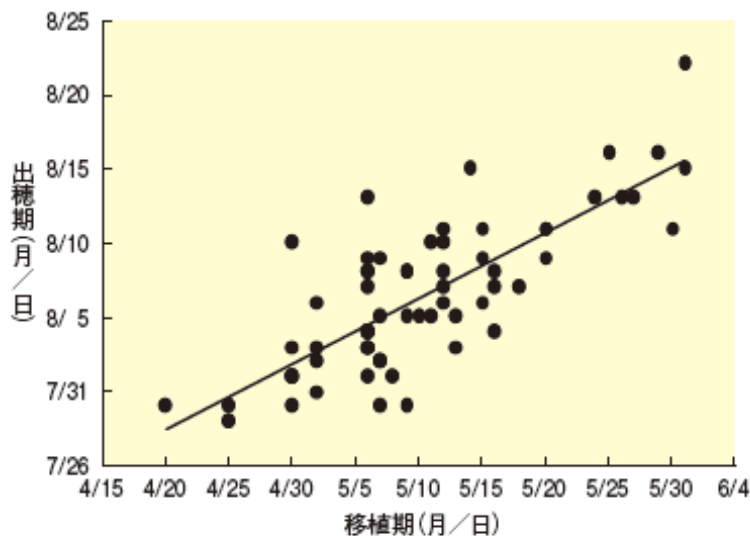


- 移植後の活着を早めるため、田植え4～5日前頃に窒素成分で1～2g/箱程度の弁当肥を施用しましょう。
- 高密度播種(密播、密苗)の場合は、苗の移植適期が短く老化しやすいので、2葉になったら直ちに田植えしましょう。

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください。

2 8月8日以降の出穂となるように、標高が低い平場では、5月20日～25日を中心に田植えを行いましょう。

- 水管理の効果が上がるようあぜ塗りや代かきは丁寧に行い、ほ場の水持ちを良くしましょう。
- 山間地では出穂期が遅れないように稚苗は5月中に田植えを行いましょう。また田植えが遅くなる場合は、中苗・成苗を使用しましょう。
- 山沿いや低地力のほ場では、茎数不足にならないよう、栽植密度を高めにし、適正な生育量をめざしましょう。
- 初期生育の促進のため、植付け深さは2～3cmの浅植えにし、丁寧な田植え作業を心がけましょう。



移植期と出穂期の関係 (H3～22年、作研、コシヒカリ)

早い田植えは出穂期が早まり、登熟期に過高温に遭遇するリスクが高まります。



3 こまめな水管理で、初期生育促進を

- 田植え後はやや深水とし、植え傷みを防ぎましょう。活着後は浅水にして水温上昇を図りましょう。
- 除草剤は使用適期、登録内容・使用上の注意を必ず確認してから使用しましょう。

農業者の皆様へ（新型コロナウイルス感染症対策の徹底について）

- ・ 新型コロナウイルスの感染を防止するため、「3つの密（密閉、密集、密接）」を避けて作業しましょう。
- ・ ハウスや作業所、集出荷施設等の屋内において多人数で作業する場合には、できる限りマスクを着用し、状況に応じて換気を行いましょう。
- ・ 屋外において多人数で作業する場合にも、できる限りマスクを着用するなど、感染防止の徹底をお願いします。